

ものづくり人材育成やまがた便り

本県のものづくり人材の定着について

山形大学学術研究院
学士課程基盤教育機構
准教授 松坂 暢浩



1. 若手社員の「働くこと」への意識や行動の変化

県内の経営者や人事担当者から「最近の若者の傾向について教えてほしい」という相談をいただくことがあります。おそらく、この質問の背景には、採用難（新卒がなかなか採用できない）や早期離職（入社してもすぐ辞めるので定着しない）など経営的な課題があるのではないかと考えています。そこで、最近の若手社員の傾向について、データを基に見ていきたいと思えます。

新入社員に対する意識調査（日本生産性本部、2018）によると、新入社員の「働く目的」は、「楽しい生活をしたい」が過去最高水準で最も多く、一方で「自分の能力をためす」は、過去最低という結果でした。そして、仕事へのコミットメントの度合いは、過去5年間の推移をみると低下傾向にあり、「仕事への挑戦意欲」が二極化している傾向があります（日本能率協会マネジメントセンター、2017）。また、現場の管理者に対する調査（リクルートワークス研究所、2014）によると、新卒者の評価として、「まじめ」で「指示したことはやる」が、「チャレンジ精神」や「主体性」などについての評価が低く、物足りなさを感じているという結果でした。

では、このような傾向のある若手社員に対して、企業は、どのように働きかけ、やる気を促し、定着を図ればよいのでしょうか？ここで、1つヒントになる視点を紹介したいと思います。

2. 若手社員の離職防止につながるヒント

若手社員の離職防止に取り組む県内企業のお話を聞くと、ある傾向が見られます。それは、若手社員にとって「安心で安全な職場づくり」（リクルートワークス研究所、2018）を目指し、取り組んでいるということです。具体的には、「仲間」や「先輩」とのつながりをつくり、仕事中や仕事以外でも対話の機会を増やし、会社が自分を大切にしてくれていると感じられる環境をつくっています。

ここでポイントになるのは、「傾聴」の考え方です。アメリカの心理学者であるE.H. シャイン（2009）は、相手の自律を目的とし、相手が何を必要としているかを質問によって導き出し、一緒に答えを考えていくために「傾聴」が重要であると述べています。特に、経営者が、積極的に若手社員の話に耳を傾けることで、彼らの承認欲求が満たされ、本気で仕事を頑張ってみようというポジティブに考えるようになり、彼らの行動に変化が見られるようになります。しかし、経験が豊かな経営者ほど、どうしても指示的になり、過剰にアドバイスをしてしまうなど「聴く」ことを忘れてしまうことがあります。

「傾聴」には、話し手が自分の話を受け止めて聴いていると感じられるような『聴き方』（相槌や頷きなど）と、自分の「判断」や「評価」をまずは挟まず、分かったことを伝える『返し方』（特に相手の感情面について理解した点を返す）の2つが重要になります。ぜひ、上記2つの観点を意識し、一度若手社員と膝を交え、彼らの気持ちに寄り添いながら、アドバイスは最小限に留め、じっくりと話を聴く機会を設けてみてください。

参考・引用文献

- エドガー・H・シャイン（金井壽宏（監修）、金井弓（翻訳））（2009）『人を助けるとはどういうこと 本当の「協力関係」をつくる7つの原則』英知出版
- 古宮昇（2008）『傾聴術 -ひとりでも磨ける"聴く"技術』誠信書房
- 日本生産性本部（2018）「平成30年度 新入社員 働くことへの意識調査結果」
- 日本能率協会マネジメントセンター（2017）「イマドキ若手社員の仕事に対する意識調査2017」
- 諸富祥彦（2011）『人生にいかすカウンセリング -自分を見つめる、人とつながる』有斐閣アルマ
- リクルートワークス研究所（2014）「若手社員の実態調査」
- リクルートワークス研究所（2018）「若者を発芽させる温度」『Works』, No146, pp4-35

「企業訪問記」

外国人留学生を中核人材として活かす

～スズキハイテック株式会社～

鈴木 一徳 代表取締役社長



私どもスズキハイテック株式会社（代表取締役社長 鈴木 一徳、従業員117名）は、1914年（大正3年）に山形市上町に鈴木メッキ工場として創業しました。当社は創業100年を迎え、これまで蓄積してきた技術を踏まえて、21世紀を担う幅広い分野に挑戦しています。

今、時代はグローバルに展開し、インターネットを通じて双方向で情報が飛び交うユビキタス時代を迎えています。その結果、成熟した社会となり、モノの価値や生活環境が大きく変化し、人の生き方や考え方がより心の豊かさ、かけがいのない地球環境保全への取組へと進み、資源環境型社会への構築が求められるようになってきています。めっき技術は、従来からの表面処理技術以外にも、コンピュータや携帯電話、自動車の電子機器など、エレクトロニクス分野には不可欠な技術となり、それらの機器の発展のキーテクノロジーとなっています。めっきはひとつの電子を与えればひとつの原子を析出する事から、原子または分子を人工的に積み上げて、種々の新機能材料や微細構造体を形成できる技術であり「ナノ・テクノロジー」への対応に欠かすことのできない重要な技術でもあります。当社の固有技術である表面処理技術と環境対応技術で、エレクトロニクス製品、自動車関連機器、産業機器の中心的な役割を担うよう努力を続けています。

「めっき業界のスタンダード」を目指して

当社の経営の基本方針として「めっき業界のスタンダードになる」を掲げている。めまぐるしく変化するこの時代に、常にその時代のスタンダードを目指している。社員一人一人が過去の実績や古い体質では通用しないとの認識の下、日夜スタンダードを目指して取り組んでいる。当社の特徴である「表面処理技術」と「環境対応技術」で、エレクトロニクス製品・自動車関連機器・産業機器の中心的な役割を担うよう、今後とも努力を続け、常に「挑戦」し続けることが最大の使命である。

外国人留学生と共に学び共に成長

当初は海外事業の必要性から外国人を採用したが、現在は山形で仕事をしたい留学生を積極的に採用している。社員が留学生と共に仕事することで、共に学び共に成長を実践している。現在は、8名の留学生を高度人材として採用し、全員新規プロジェクトを担当し、離職者はゼロである。

採用の重要ポイント

～会社として外国人留学生に明確にすべきこと～

- ・就労してもらう目的と将来の目標（目指すべき姿）をはっきりと提示する。
- ・利他の心を持ってもらうこと。

～会社として外国人留学生にもとめること～

- ・日本語能力検定試験N2以上の実力があること。
- ・山形で仕事をする目的は何なのか（なぜ山形で仕事をしたいのか）が明確であること。
- ・今後自分がどのように成長していきたいのかが明確であること。

人材育成

必要な場合には、東京などにあるめっき学校に入学させるなど外部の研修を有効に活用している。

今後の課題

山形県内の大学、高等教育機関の留学生の多くは、山形県内（日本）への就職、定着を希望しているが、留学生と企業の間でうまくマッチングしていないのが実状である。採用企業の拡大による選択肢の拡大が望まれている。

大学、高等教育機関、山形県などへのお願い

日本の就職活動を理解していない多くの留学生は、就職活動で戸惑っており、公的な就職活動のサポートが必要と考えている。

キーワードは「理解」「尊重」「共有」

お互いの理解と尊重、思いの共有が重要である。

採用実績について(2019年度)

3名採用（留学生1名 山形大1名 工業高校1名）

[スズキハイテックホームページ http://www.shtnet.co.jp](http://www.shtnet.co.jp)

＝ 若手社員へのインタビュー ＝

山形県とインドネシアの架け橋を目指して！

インドネシアパプア州出身の入社1年のペトルス ヤサヤ サモリさんにお話を伺いました。

Q 入社のはじめは

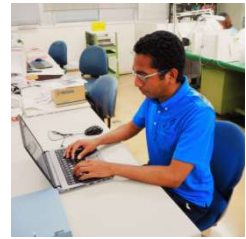
山形県とインドネシアパプア州との架け橋になれると思ったので入社しました。鈴木社長の思いと私の思いが一致したので、架け橋になれると確信しました。

Q 担当業務の内容と感じていることは

私は英語が話せるので海外取引を担当しており、現在はフランス企業との新規事業の取引を担当しています。

Q 現在の仕事はどうか

新規事業なので、色々な実験があり、上手くいかないと落ち込みます。大学では体験したことが無いことが多くて、困った時は、上司と相談したり、自分で調べることも多くあり、遣り甲斐があります。



Q これからの目標は

山形県とインドネシアの架け橋になることを少しずつ実現したいです。

Q 趣味はありますか

毎週日曜日に教会で子ども達のためのボランティアをして9年になります。聖書を教えたり、一緒に遊んだりしています。

Q 最後に、大切にしている心構えは

どんなに苦しくても人のために頑張ることで。 (利他の心)

最後に、対応いただいた鈴木社長、李さん、武田さん、そしてインタビューに対応いただいたペトルスさんに感謝申し上げます。

～(公財)山形県産業技術振興機構研修課より～

たくさんの企業の皆様に、当機構主催の製造業技術者研修、成長分野参入人材育成研修を御利用いただき誠にありがとうございます。

今後とも県内産業振興のため、ものづくり企業の皆様の人材育成の一助となる研修事業や情報の提供を展開してまいりますので、引き続き、御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆製造業技術者研修◆



<産業用ロボット特別教育研修>

◆成長分野参入人材育成研修◆



<在庫管理研修>

～今年度初号にあたり編集者から一言～

今年度の初号は、キャリア教育論の専門家である山形大学の松坂暢浩准教授に「本県のものづくり人材の定着について」というテーマで寄稿いただきました。また、企業訪問記におきましては、外国人留学生を中核人材として活かしておられるスズキハイテック株式会社に訪問インタビューさせていただきました。

御協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

令和元年度 公益財団法人 山形県産業技術振興機構における各種研修事業 概要

	コース名	研修概要	研修時期	日数	定員	受講料
製造業技術者研修	1 品質管理	品質管理の考え方と実践を具体的な事例をとおして学び、品質管理体制の構築の手法を習得する。	9/6 9/13 9/20 9/27	4日	32	24,000
	2 精密測定技術【終了】	精密測定の講義、ならびにマイクロメータの使い方・表面粗さなどの実習を行うことにより、精密測定技術の基礎を習得する。	6/5 6/6 6/7	2日	12	22,000
	3 切削加工・研削加工技術【終了】	切削加工および研削加工について、講義および実習を通じて基礎的かつ実践的な技術力の習得を図る。	6/10 6/11 6/12 6/13	2日	15	24,000
	4 製品設計・製造に役立つ金属材料学	工業製品の設計・製造に不可欠な材料について、鉄系材料を中心として基礎的な知識を習得する。また、強度試験、硬さ試験、組織観察等を通じて金属材料の評価方法を学ぶとともに、材料の特性と組織の関係等についても理解を深める。	11/7 11/8	2日	18	23,000
	5 産業用ロボット特別教育研修【終了】	産業用ロボットの操作方法や、操作で必要となる知識について、習得する。労働安全衛生法により、現場導入に必要なとなる、教示等の業務に従事する者に義務付けられている研修である。	5/28 5/29	2日	15	23,000
	6 異物解析技術入門	顕微赤外分光分析装置および超高分解能走査型電子顕微鏡を中心とした分析機器の原理や機能について、実際の装置の操作実習を通して学習する。また、分析に係る試料作成法や取得したデータの解析法等、現場で活用できる知識を習得する。	10/30 10/31	2日	12	23,000
	7 プラスチック材料の射出成形と物性評価	プラスチック射出成形の基礎とプラスチック材料の熱的特性及び機械的特性の基本的な試験方法を習得し、プラスチック材料を利用する上での基礎的知識を学ぶ。	10/10 10/11	2日	15	23,000
	8 清酒製造技術	各県を代表する有力杜氏や技術者を招聘し、技術解説を行っていただくとともに、酒質の変遷や今後の市場動向等について学習する。	8/8 8/9 9/18 9/19 10/2 10/3	6日	32	23,000
	9 食品の安全管理技術【終了】	食品製造における安全管理項目として重要な、①微生物検査、②異物鑑別、③アレルギー物質の検査、について基本技術の習得を目標とする。	6/18 6/19	2日	15	23,000
	10 信頼性試験と加速試験の基礎(置賜)	電子機製造業を中心に重要性が高まる「信頼性」について、その概念から、基本的な信頼性技法、品質トラブルを未然に防ぐための考え方、加速試験の種類とデータ解析方法、部品調達の留意点までを、置賜試験場の試験装置の紹介を交えながら学ぶ。	10/23 10/24	2日	12	23,000
	11 食品の品質管理(庄内)	食品衛生法の改定により、原則すべての食品事業者が「HACCPに基づく衛生管理」計画を策定することが義務付けられる。本研修では、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理について、本県の支援制度を含めて講義と実習を実施する。	8/21 8/22	2日	12	23,000
人材育成研修	1 ものづくり産業マネジメント人材育成研修	企業の経営者のほか、管理部門リーダー、現場リーダー等を対象として、企業マネジメントや現場マネジメントに係る各種知識やスキルを習得するとともに、昨今の人手不足に対応するための生産性向上に向けた各種手法を習得し、参加者が自社における課題解決に対応する能力を高め、あわせて、新たに採用した社員を定着させるスキルを身につける。	10/2 10/9 10/16 10/23 10/29	5日	15	20,000
成長分野参入人材育成研修	1 自動車関連研修	自動車関連の新製品開発に向けた知識の習得を目指す。	8/28	1日	15	2,500
	2 生産管理研修【募集終了】	納期を見据えた製造工程の管理方法の習得を目指す。	7/17 7/18	2日	15	5,000
	3 在庫管理研修【終了】	在庫管理の改善によるコスト低減の手法の習得を目指す。	5/28 5/29	2日	15	5,000
	4 生産改善研修	講義と現場実習を通して実践的な改善手法を学び自社の生産性向上を図る。	(一般) 10/8 10/18 10/25 (女性向け) 9/12 9/19 9/26	3日	15	7,500
	5 現場リーダー資質向上研修	県内企業において、部下の積極性・意欲を高められるよう現場リーダー層の指導力向上を目指した研修を実施し、企業の組織力の強化を図る。	11月	2日	15	5,000
	6 ものづくり人材初級研修【募集終了】	ものづくり産業の基本や産業人の心構えを学ぶことにより、社員の意識向上、離職防止を図る。	6/11 6/12 11/28	3日	15	7,500
	7 自動車部品ライブラリーの展示	自動車部品ライブラリーの展示及び部品貸し出しの実施【展示場所：山形県高度技術研究開発センター 玄関展示ロビー】	通年	-	-	-
ロボットシステム育成研修	1 入門(営業技術コース)研修【募集中】	ロボットシステムの導入プロセス標準「RIPS」の習得、並びに最適なロボットシステム導入に不可欠な工程分析、生産プロセス提案能力の習得を目指す。	7/24 7/25	2日	20	10,000
	2 専門(ハード設計コース)研修	工業技術センターの協働ロボット仮想生産ラインを活用し、ロボットハンドの設計技術や把持計画など専門的なスキルの習得を目指す。	9月	2日	15	10,000
	3 応用(ソフト設計コース)研修	工業技術センターの協働ロボット仮想生産ラインを活用し、制御プログラムやセンサ対応能力などより高度なスキルの習得を目指す。	11月	2日	15	10,000